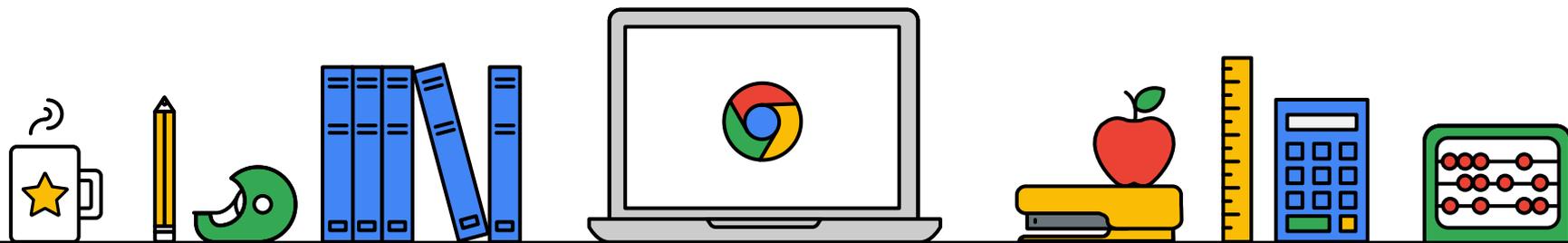


サポートが必要な児童・生徒のための

Google for Education ヒント集

最終更新: 2022 年 4 月



はじめに

本資料は、Chromebook および Google for Education をご利用いただく上でサポートが必要な児童・生徒の皆様の補助となる機能について、教員向けにご紹介しております。

本資料でご紹介している機能は、あくまで一例でございます。

「設定」ページから「ユーザー補助機能の管理」を参照いただくと、その他にも機能が紹介されていますので、児童・生徒の皆様の個性に合った機能を見つけていただければ幸いです。

詳細は「[ユーザー補助機能](#)」のページをご覧ください。

また、Google ではユーザー補助機能の更なる改善に向けて、皆様からのフィードバックを募集しています。ぜひ教育現場からのお声をお聞かせください。

アンケートは[こちら](#)（回答期間～2022年7月31日）



視覚的サポートが必要な児童・生徒のための機能

機能名をクリックすると
ページに飛べます

1

文字や画像が小さくて読みにくい



解像度の変更

2

文字や画像をより大きく表示したい



拡大鏡

3

文字だけを特別大きくしたい



文字の大きさを変更

4

ディスプレイが白背景だと眩しくて見づらい



ハイコントラストモード

その他サポートが必要な児童・生徒のための機能

機能名をクリックすると
ページに飛べます

5

キーボード入力が難しい



音声入力機能

6

漢字が読めない



選択して読み上げ

7

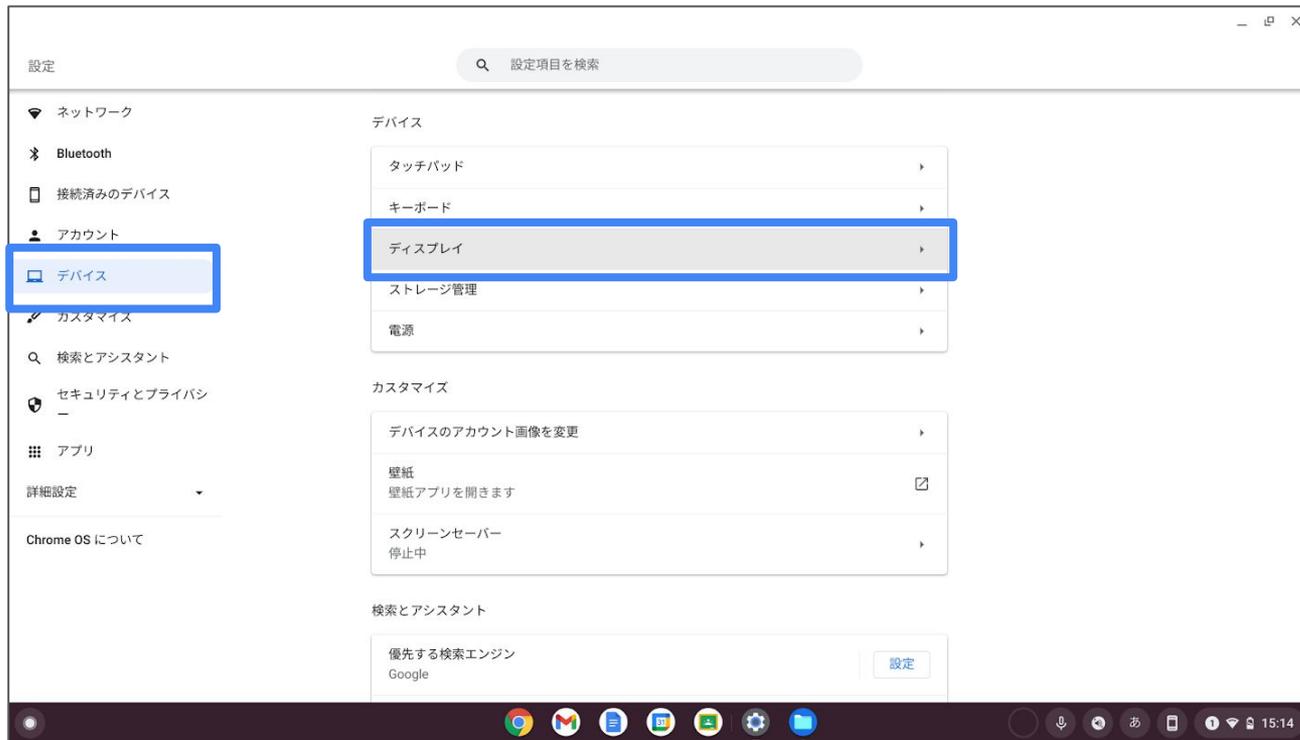
画面は見えるが文字を読むのが難しい(失読症)



選択して読み上げ

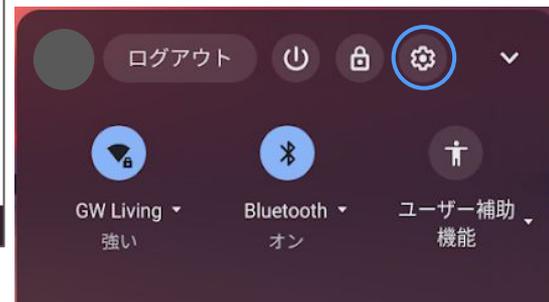
1. 画面の解像度を変更する 1/2

少しでも画像や文字を大きくしたい場合、画面の解像度を変更することで解決できる場合があります。



Chromebook の設定から、左手のデバイスを選択し、右側のディスプレイをクリックします。

※設定は、画面右下の時計をクリックし、歯車アイコンのクリックでも開くことができます。



1. 画面の解像度を変更する 2/2

「画面内の情報量が多すぎて混乱してしまう」といったケースにも利用可能です。



表示サイズのスライダーをドラッグして調整します。右に行くほど表示が大きくなります。

反対に、左にドラッグすると表示が小さくなり、画面内により多くの情報を表示することができます。

2. 拡大鏡を使ってみよう 1/2

全画面拡大鏡を有効にすると、マウスがある部分を中心に画面が拡大されます。非表示の部分を見たい場合は、その方向にマウスを移動します。

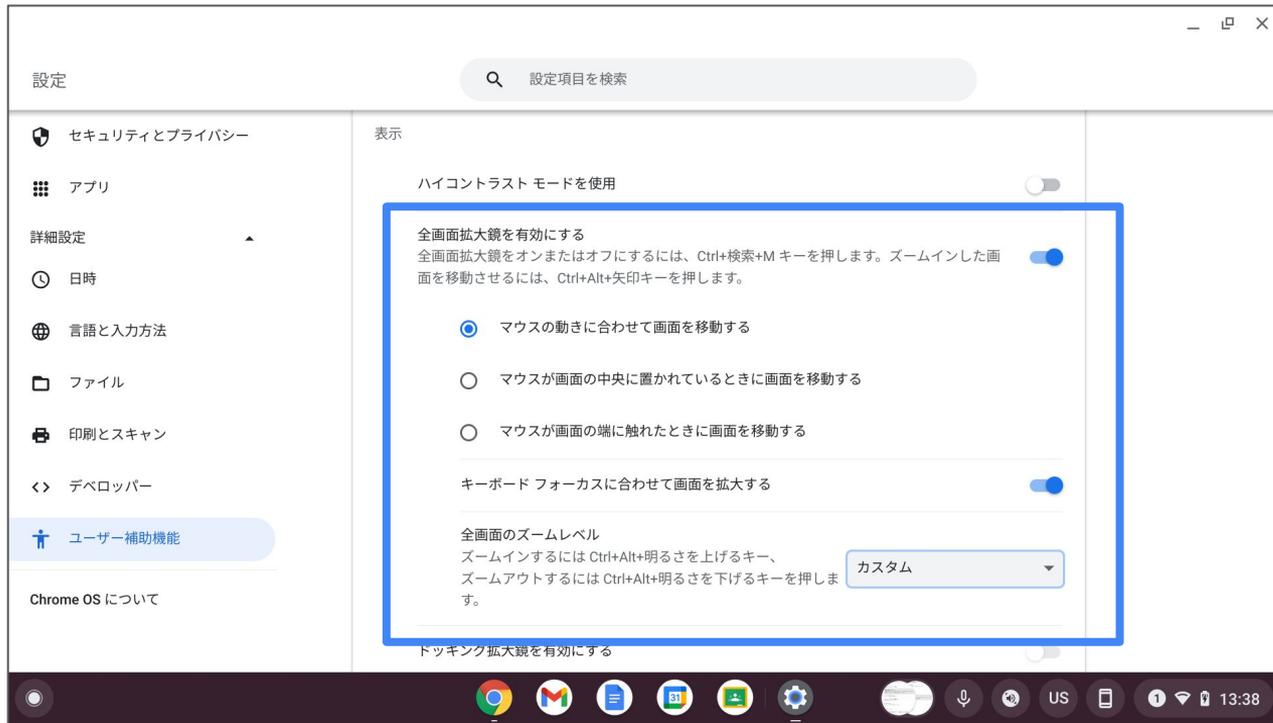


Chromebook の設定から、詳細設定 > ユーザー補助機能 > ユーザー補助機能の管理と進み、「全画面拡大鏡を有効にする」をオンにします。

また、Ctrl + 検索 (🔍) + M キーでも有効にできます。

2. 拡大鏡を使ってみよう 2/2

拡大鏡を有効にすると、より細かな設定が表示されます。児童・生徒の視力に応じて調整しましょう。



「全画面拡大鏡を有効にする」をオンにすると、表示範囲の追従設定の変更や拡大率の変更ができます。

拡大率の変更は
Ctrl+Alt+明るさ変更キー 
で行うことも可能です。

機能の詳細については「[ズームや拡大鏡](#)」をご覧ください。

3. 文字の大きさを変更する 1/3

小さい文字が見えにくい、拡大鏡を利用するほどではない場合、文字の大きさを大きくすることで解決できる場合があります。

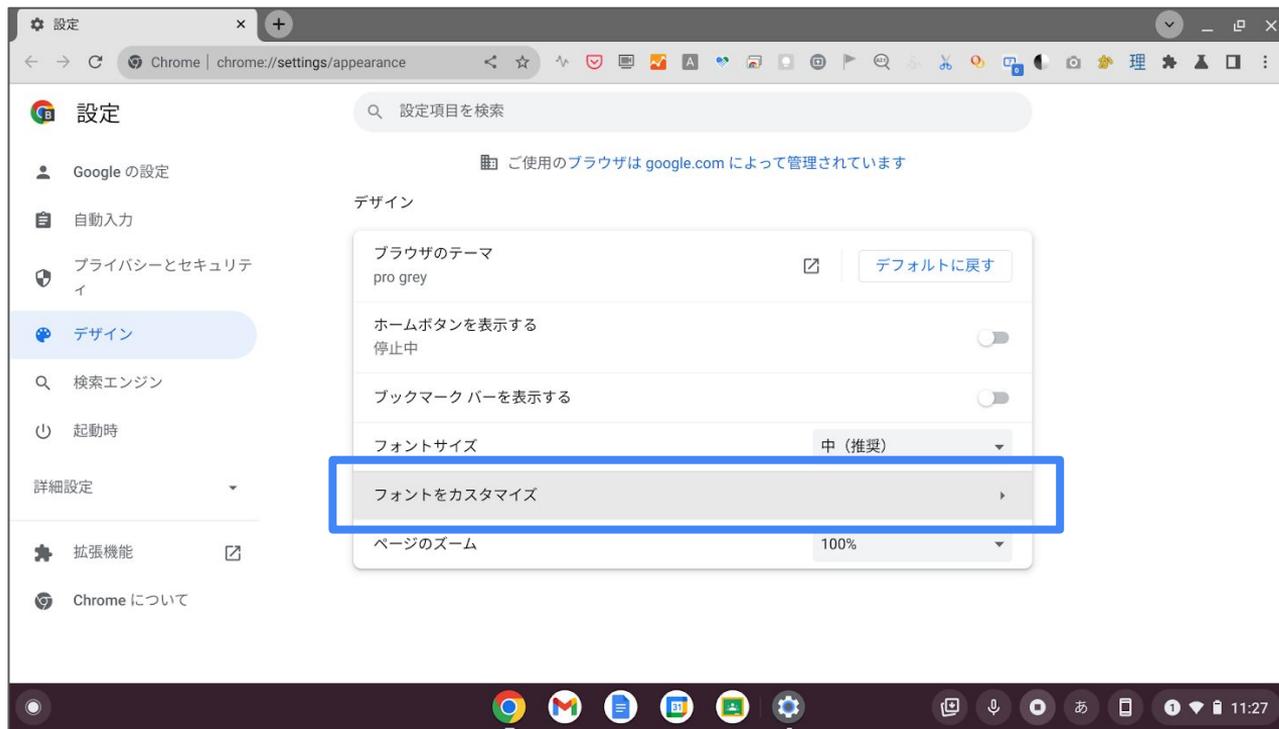


Chromebook の設定から、**詳細設定** > **ユーザー補助機能** > **ユーザー補助機能の管理**と進み、「**表示設定を開く**」をクリックします。

※ブラウザで設定画面が開きますので、次のスライドに進んでください。

3. 文字の大きさを変更する 2/3

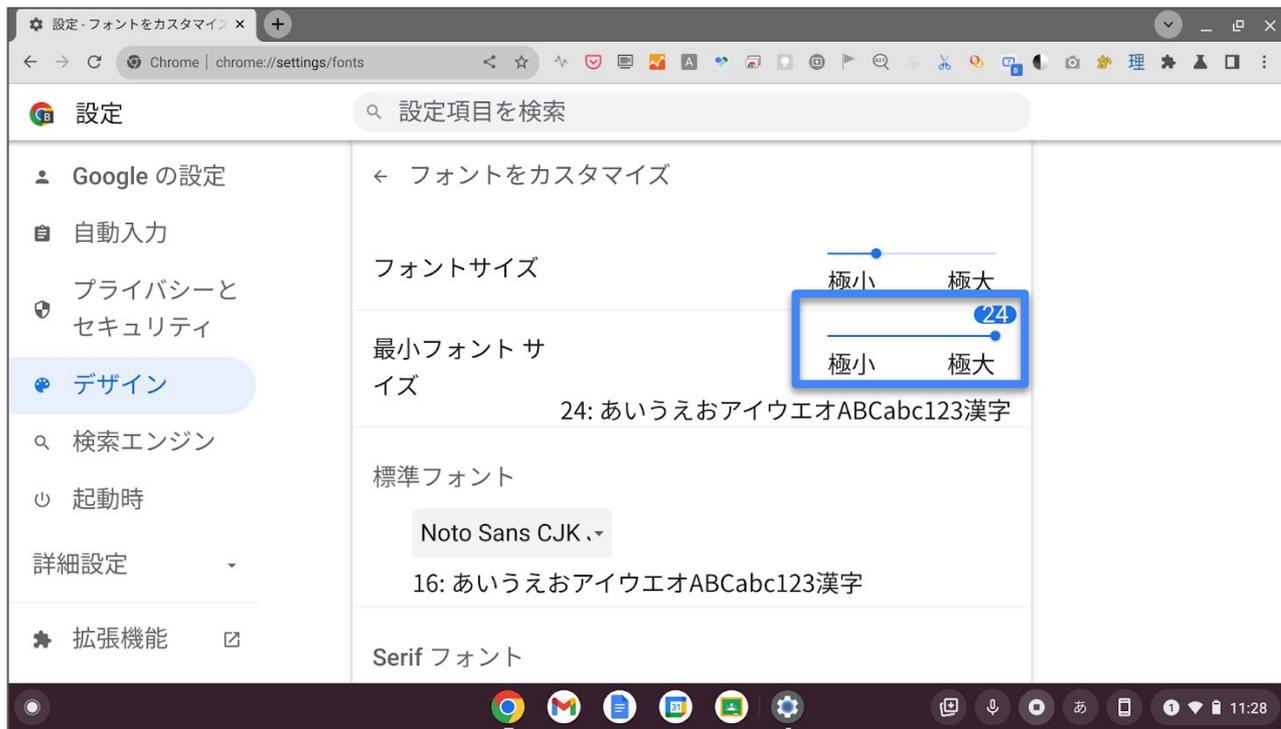
小さい文字が見えにくい、拡大鏡を利用するほどではない場合、文字の大きさを大きくすることで解決できる場合があります。



「フォントをカスタマイズ」をクリック
します。

3. 文字の大きさを変更する 3/3

小さい文字が見えにくい、拡大鏡を利用するほどではない場合、文字の大きさを大きくすることで解決できる場合があります。



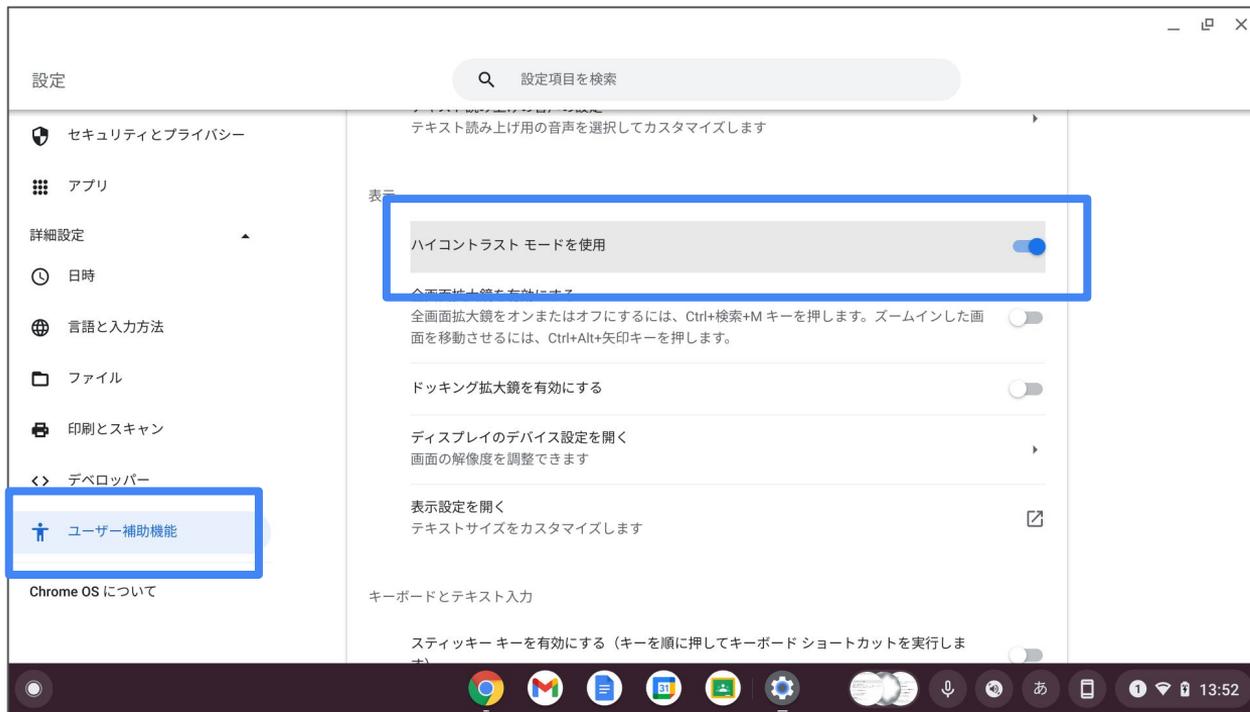
「最小フォントサイズ」のスライダーを変更します。

※この設定はブラウザの表示コンテンツにのみ影響します。なお、サイトによっては効果がない場合もあります。

機能の詳細については「[ステップ 2: 機能を有効にする→表示](#)」をご覧ください。

4. ハイコントラストモードを使ってみよう

ハイコントラストモードを有効にすると画面が白黒反転します。白地に黒文字が見えにくい場合、この機能を使うことで視認性が高くなる場合があります。



Chromebook の設定から、**詳細設定** > **ユーザー補助機能** > **ユーザー補助機能の管理**と進み、「**ハイコントラストモードを使用**」をオンにします。

前出の拡大鏡と併用することも可能です。

機能の詳細については「[ハイコントラスト](#)」をご覧ください。

5. 音声入力機能を使ってみよう 1/2

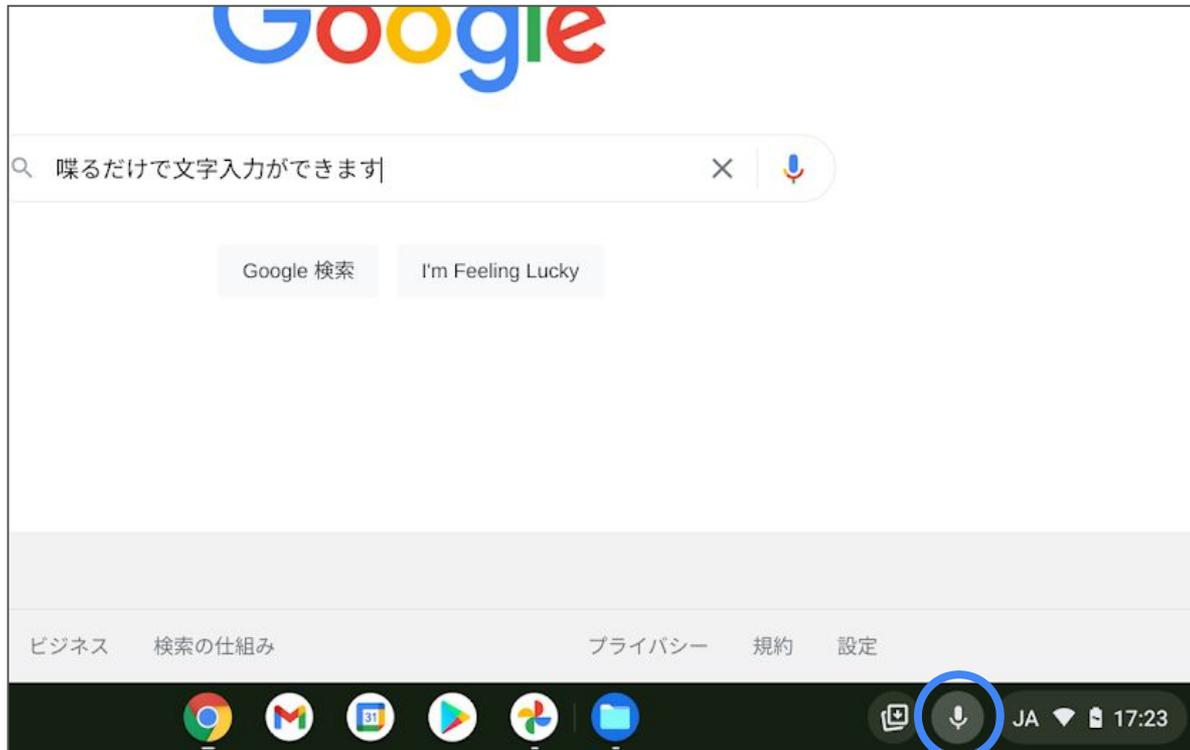
音声入力機能を使用すると、キーボードを使用することなく文字の入力を行うことができます。



Chromebook の設定から、詳細設定>ユーザー補助機能>ユーザー補助機能の管理と進み、「音声入力を有効にする」をオンにします。

5. 音声入力機能を使ってみよう 2/2

音声入力機能を有効にすると、シェルフにマイクボタンが表示されるようになります。



任意のテキスト入力フィールドをクリックし、文字入力可能な状態になったら、**マイクボタン**をクリックします。

喋った音声は文字として入力されます。

※漢字変換は修正できません
※他の箇所をクリックしたり、10秒間音声がないとマイクがオフになります。

機能の詳細については「[音声でテキストを入力する](#)」をご覧ください。

6.7. 選択して読み上げを使ってみよう 1/3

漢字を読むのが難しい児童生徒、または失読症などで文字の認識が難しい児童生徒には「選択して読み上げ」が有効です。



Chromebook の設定から、詳細設定>ユーザー補助機能>ユーザー補助機能の管理と進み、「『選択して読み上げ』を有効にする」をオンにします。

6.7. 選択して読み上げを使ってみよう 2/3

漢字を読むのが難しい児童生徒、または失読症などで文字の認識が難しい児童生徒には「選択して読み上げ」が有効です。



『「**選択して読み上げ**」を有効にする』をオンにすると、シェルフに**スピーカーのアイコン**が表示されます。

6.7. 選択して読み上げを使ってみよう 3/3

漢字を読むのが難しい児童・生徒、または失読症などで文字の認識が難しい児童・生徒には「選択して読み上げ」が有効です。

Google Workspace for Education はあらゆる教育者をサポートします

Google Workspace for Education は、学校でのコラボレーションの促進、指導の効率化、安全な学習環境の維持を目的にカスタマイズされたツールとサービスのセットです。教師と生徒がともに学び、働き、イノベーションに取り組む方法を変革しましょう。

Speaker icon highlighted in blue circle.

スピーカーのアイコンをクリックしてから、読み上げたい範囲を範囲選択すると読み上げが開始されます。

また、先に読み上げたい範囲を選択し、検索キー(🔍)+S キーでも読み上げを開始できます。

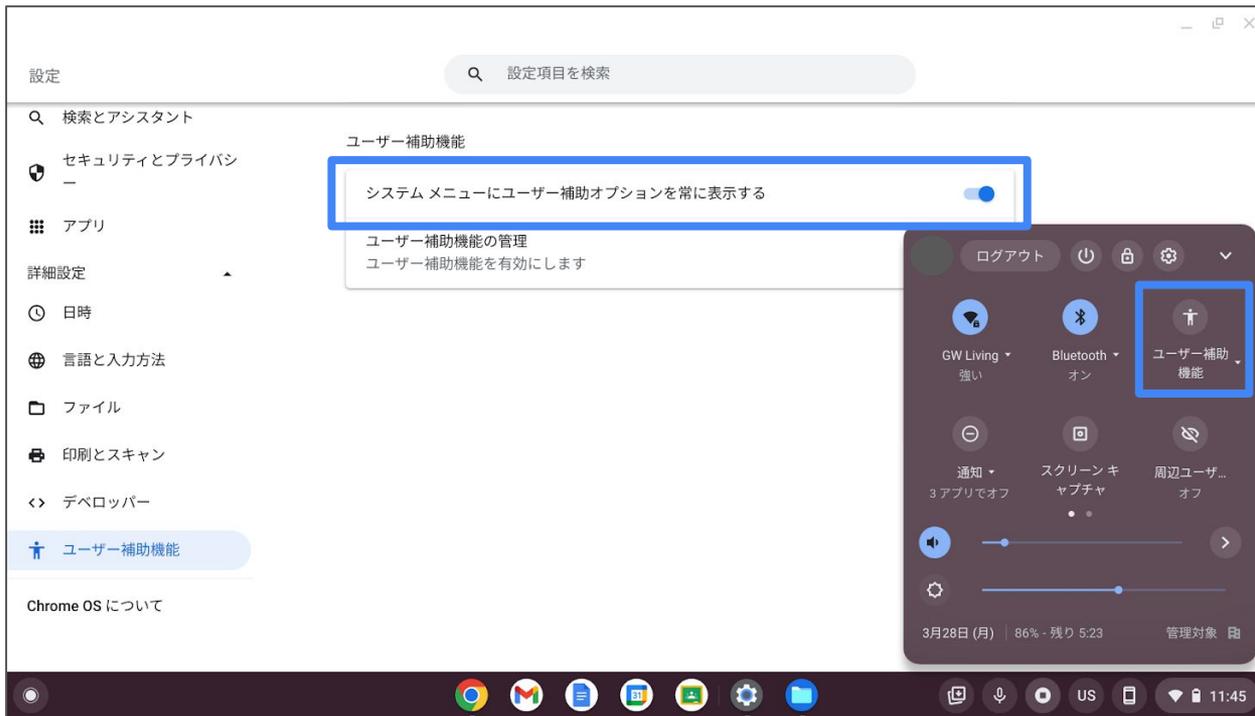
※画像として貼られている文字は読めない場合があります。

※読み上げは 100%正確ではなく、漢字の読みなど間違っている場合もあります。

機能の詳細については「[テキストを読み上げる](#)」をご覧ください。

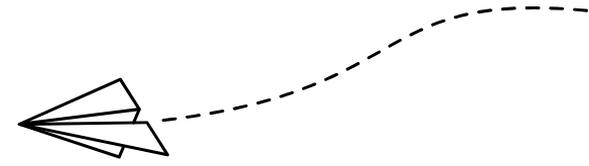
ヒント: ユーザー補助機能を頻繁にオン・オフする場合

システムメニューにユーザー補助機能のショートカットを追加することができます。これにより、各機能のオン・オフが容易になります。



Chromebook の設定から、**詳細設定**
➤ **ユーザー補助機能**と進み、
「**システムメニューにユーザー補助オプションを常に表示する**」をオンにします。

この設定を有効にすると、システムメニュー(画面右下の時計をクリック)のなかに「**ユーザー補助機能**」が追加され、各機能の切り替えを簡単に行うことができます。



Google for Education